

VSAT（超小型地球局）システム用アンテナ

1987年（昭和62）、VSAT（Very Small Aperture Terminal：アンテナ径2m以下）衛星通信用にKu帯1.2m修整オフセットグレゴリアンアンテナを開発した。この超小型アンテナの有効開口径は1.2m、使用周波数帯域は受信が11GHz帯、送信が14GHz帯である。波動光学理論により最適設計された特殊な鏡面の利用により、 D/λ が50程度と小さくとも極めて低サイドローブで、かつ高能率（72%以下）で交差偏波に優れた特性が広帯域にわたって実現できることが実験で実証された。このアンテナはのちに商品化され、国内系SNG（Satellite News Gathering）車載局やインテルサット衛星を用いたVSAT衛星実験システムなどに利用された。

出典：KDD社史